

さまざまな講座が開かれています

男女平等推進プラザ「はばたき 21」では、性別役割にとらわれず、だれもがいきいきと自分らしく生きていける男女平等な社会の実現を目指し、講座を実施しています。受講した編集委員の感想です。

私ひとりでがんばらない！ 家族で楽しく家事をするコツ



コツ、というからにはテクニック的な何か、要領よく家事をこなしていく方法を教えてくれるのかと予想していましたが、全く違いました。

子供にお手伝いをさせるということは、子供の力をあてにすること。「あなたを頼りにしている」「あなたと家事ができて嬉しい」というメッセージを伝えることでもあって、親子関係のためにも、子供が自分の力と知恵で生きていけるようになるためにも、大切なことだと辰巳さんは言います。

やらなきゃいけない、やりたくない厄介な作業としての家事から、自分にとって心地よく生活するための家事へ。意識の方向が変わることで、「こうしなきゃいけない」「こうあるべき」から自由になっていくのを実感しました。自分なりの、自分の家庭なりの家事のあり方をきちんと考えること。それこそが表面的なテクニックではない、生きる力、知恵につながっていく家事への取り組みなのだという、力強いメッセージでした。

未来をつくる歴史の学び方

—ジェンダーから見たアジアの近現代史—

ジェンダーの視点で歴史を読み替えるとは、生活・家族・性・生殖・老いなど、広く、深い問題を問い直すことでしょうか。しかし、その前提として、基本的な歴史の知識の土台が必要になりますが、残念ながら、今の高校の歴史教育は、授業時間も減り、学生たちの知識は一層後退しているとのこと。そのような状況では、ジェンダーの視点で歴史を捉え直すのは、ますます困難な状態だとわかりました。

小浜さんはこれまでの歴史認識の見直し例として、専

門のアジアの近現代史で、中国の慣習である「纏足(てんそく)」イコール「野蛮」とされたことに疑問を呈し、再検討を促した中国史研究者の論を紹介してくれました。それは一方的な価値基準で、断定することへの懐疑でした。

さらに踏み込んで、ジェンダー意識は、無意識のうちにすり込まれていることが多く、「ジェンダーに敏感になること」の大切さについても言及されました。



平成 27 年度区民学習活動支援事業対象講座一覧

日時	講座名	主催団体	講師(敬称略)
7/18(土)	私ひとりでがんばらない! 家族で楽しく家事をするコツ	NPO 法人台東区の子育てを 支え合うネットワーク	辰巳 渚(「家事塾」主宰)
8/29(土)	できました! 台東区男女平等推進基本条例 私たちはどう活かすか	台東区男女平等条例を まなぶ会	皆川満寿美(大学非常勤講師) 田中和子(文京区区民(区議)) 我妻澄江(北区区民) 五十川チトセ(台東区男女平等条例をまなぶ会会員) 宮崎黎子(台東区立男女平等推進プラザコーディネーター)
①9/ 6(日) ②9/20(日)	子どもの“生きる力”を育てる ～おとこ目線の子育て～	たいとう子育てサポーターズ	①柳 和宏(チャレンジ スポーツクラブ代表) ②西野博之(川崎市子ども夢パーク所長/ NPO 法人フリースペースたまりば理事長)
10/18(土)	未来をつくる歴史の学び方 ジェンダーから見たアジアの近現代史	台東女性史あゆみの会	小浜正子(日本大学文学部教授)
10/24(土)	日本の結婚どうなっている? —自分らしく生きるために—	新日本婦人の会 台東支部	佐藤香代(弁護士)

区民学習活動支援事業とは、台東区立男女平等推進プラザの登録団体のの方々を対象に男女共同参画社会の形成に資する事業を公募し、選考会で選ばれた講座です。男女共同参画に係わる区民の学習の推進を図ることを目的としています。

「防災広場 初音の森」の 総合防災訓練に参加 しました!



2015年11月1日、「防災広場 初音の森」で台東区主催の総合防災訓練が行われました。

地震車による震度体験、煙体験、初期消火訓練、応急救護訓練など、参加者が実際に体験できるもののほか、警察・消防による救出・救護訓練、防災用資器材の展示・紹介など多くの防災に役立つコーナーが設置されていました。



●地震車につてみたら:

震度7の揺れは想像以上。揺れ始めは弱く感じても、揺れが強くなるとまったく動けなくなります。まずは机などの下に入りましょう。もし近くに机がなければ、クッションや本で頭を守ることが大切です。わずかな揺れでも、早めの行動があなたを守ります。

●応急救護訓練にもチャレンジ



もし、救護を必要とする人を発見したら、まずは周囲の安全を確かめます。その後、その人の肩を叩き反応があるか確認します。反応が無ければ大声で他の人を呼び、119番通報をし、AEDを持ってきてもらうよう頼みます。また、呼吸が無い場合はAEDが来るまで胸骨圧迫を続けましょう。

AEDの使い方は簡単。操作方法は機械が教えてくれます。応急手当て開始が早いほど、助かる確率も高くなります。勇気を出してやってみましょう。

●前が見えない!煙体験

煙で10センチ先も見えない!地震に伴い、火事が起きることも想定されます。もしハンカチを持っていたら口を覆い、なるべく低い姿勢で、壁に沿って歩きましょう。

もしもの時のために、防災行動力を身につけておきましょう。これらの地震体験・煙体験などは本所防災館で体験できます。

施設名 東京消防庁 本所防災館
場所 墨田区横川4-6の6
電話 03-3621-0119
開館時間 午前9時～午後5時
休館日 水曜日・第3木曜日(祝日の場合は翌日
12月28日～1月4日
入館 無料(事前予約推奨・駐車場有り)

●防災便利グッズ発見



「T型固定式不動王」
家具転倒防止機器
ですが、ねじ止め不要で誰でも簡単に取り付けできます。

「自遊自在曲げロックM」
扉の開閉つまみやハンドルのロックキーパー。取付位置の幅に合わせて調節が簡単でおしゃれです。



●初音の森にある避難用設備
初音の森には、震災時の備えとしてマンホールトイレ、かまどベンチ、防災井戸、防火水槽等の設備があります。



マンホールトイレ



かまどベンチ

～いざという時に役立つ防災の本～

- 『地震イツモノート』地震イツモプロジェクト編 ポプラ社
- 『災害支援に女性の視点を!』竹信三恵子 赤石千衣子編 岩波書店
- 『被災ママ812人が作った子連れ防災手帖』つながる.com編 kadokawa
- 『被災ママ812人が作った子連れ防災実践ノート』マブラダ著 kadokawa/メディアファクトリー
- 『震災のときあったらいいもの手帖』チーム住まいと暮らし監修・執筆 住まいの学校

「ヘルプカードをご存じですか?」
ヘルプカードは障害のある方が困った時に、周囲にいる人に配慮や手助けをお願いするためのカードです。
身体障害・知的障害・精神障害の他、難病の方もヘルプカードを持っています。
もし災害時にこのカードをお持ちの方を見かけたら、ぜひ手助けをお願いします。

